

教職員の賃金は減らされて当然??!

教育の充実と教職員と国民の暮らしを守る立場から考える

問題提起 全教広島 書記長 今谷 賢二

締め切りが過ぎてもなかなか届けることができず、しかも概要で…。当日をお楽しみに。
吟味せずに書き込んでいく文字通りのレジメですから、書き言葉ほどに難しくありません!

1. おい、ホントか...教職員賃金をめぐって、信じがたい出来事があちこちで...
 - ・ 平均4.8%、最大7%もの大幅賃下げを強行する「給与構造改革」
 - ・ 最低限の経過措置 - 「現給保障」をしないという提案
 - ・ 教職員の月々の給料を10%も削減するという地域

* 「安定した職業」とされてきた公務職場に吹き荒れる雇用と賃金の破壊

 - ・ 「指定管理者制度」への競争から30%を超える賃下げ提案が相次ぐ
 - ・ 自治体合併で230人の臨時職員の首を切ったA市 その後も怖い
 2. 無理難題を強行するときの口実は これがホントに原因か?
 - ・ 公務員の賃金は高すぎる ホントか? 国民の公務員批判の中心は高級官僚と天下り
 - ・ 地方の財政が厳しい..... これは事実、しかし、なぜこうなったかは触れられない
 - ・ 官から民へ ここ1月余りだけでもその危険性と破綻は明らか?
 - ・ 究極の言い訳 「構造改革」 誰も、なんの、どこを改革するかはいわずに、「変えること」を目的化する動き。仮に「悪いところ」があっても、「それは何故?」は問わない。ましてや、「悪いところ、困ったところ」を作り出した責任なんて聞いたことがない。
 3. それでも、「公務員の賃金は高い」、「公務員は減らせ、賃金下げろ」の大合唱
 - ・ 悪政が後押しする「公務員バッシング」 政治に苦しめられている国民が、その苦しみの現況を政治にあると認識するには、かなりの努力と時間が必要
 - ・ 子どもたちの人間らしい成長と発達を願っているのに、子どもの目はガラガラして競争的になってきた。 学校は何をしているのか、教職員に力がないのではないか
 - ・ 「こんなに生活が苦しいのに、あれこれと理由をつけて生活保護の認定をしぶられる」 今日、窓口で対応したのは公務員だ、あいつらが好き勝手やっているから俺は苦しいんだ、公務員を減らせ、あいつらの給料を下げろ
.....この手の話にこと欠かないのが今日の実際の姿ではないでしょうか。
 4. しんどいときに気をつけること 視線を広く、目のつけ所を高く、動きには細心の注意を
今谷語では「着眼大局、着手細心」 ここがポイント
- (1) 注目したいいくつかの指標と数字
- ・ 「所得税の税率」 約30年の推移から見えるもの
みなさんの所得税率はどれくらいか?
貧乏球団「広島東洋カープ」のエース 黒田は2億円ピッチャー 彼の税金は?
1980年 当時の2億円プレイヤーの税金は?

- ・ 「ジニ係数」に見る日本社会
 そもそも「ジニ係数」とはなんぞや 誰か説明してくれ!
 「ジニ係数」1の社会 「ジニ係数0」の社会
 日本の今はどの程度、そして教職員の社会的位置はどこに
- ・ 総務省「家計調査年報」が映し出す労働者の家計
 貯蓄なし世帯が3割近くに
 公務労働者は、どのあたり...

教職員賃金はやっぱり高いのか

公民労働者はやっぱり給料減らさんといけんのか

教職員の賃金、労働条件とは何か

それはどのようにして決められるのが、基本のルールか

人事院勧告、労働条件決定の原則

(2) 給与構造の改革と教職員賃金

1) 大幅な賃金切り下げを前提に、「3つの格差」を広げる内容と教育

- ・ 全体の賃金を引き下げる
- ・ 地域による格差をつける
- ・ 役職による格差を広げる
- ・ 職員間の賃金格差を広げる
- ・ 退職金にまで影響を与え、悲鳴があがる職場
- ・ それでも、一番の被害者は青年層

2) 想定される今後の賃金動向

- ・ 地域間による、教職員賃金格差の更なる拡大
- ・ 国準抛制廃止に伴う、教員関係諸手当の見直し
- ・ 人材確保法の廃止による教員賃金水準引き下げ
- ・ 評価による差別賃金の導入と拡大
- ・ 職務給の強化

(3) ベストセラー「下流社会」と教職員賃金

- ・ この本がベストセラーになったわけを考える必要がある
- ・ 「社会の流れ」は、自然現象ではない

5. 終わりに

子どもたちの人間らしい成長と発達保障する場としての学校、そこで働く教職員の賃金と労働条件はどのように位置付けられる必要があるのだろうか。「薄給」に甘んじ、子どもたちを戦場に送り出した歴史を繰り返してはならない。